

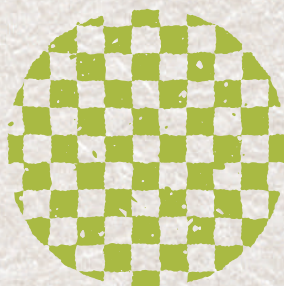
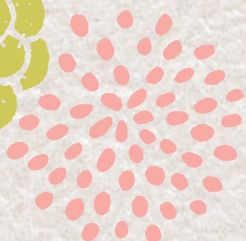


佐渡島伝統芸能BOOK

鬼太鼓編



鬼太鼓は、佐渡の集落で継承されている芸能で、鬼面を付けた鬼役と、太鼓を挟んで打ち手がいるのが基本の様式です。しかし、継承の過程で所作や持ち物、鬼面の有無、呼び方なども地域によって変わっていき、「一つとして同じ鬼太鼓はない」と言われています。地域に根付き生きている芸能と言えるでしょう。



一足型



片足をあげて太鼓を打つ

片足をあげて太鼓を打つ所作は、佐渡奉行
かわじとしあきら
川路聖謨が1840年(天保11)『島根のすさみ』
で「鬼太鼓ももっぱらかれがたたく也(中略)
かの大工がかた足にて飛びながら打つなり」
と記述したものと同様のものと考えられます。

※大工…鉾山の鉾夫



一足型もいろいろ

同じ型であっても、鬼面を付けている所や
付けていない所、長刀やまさかりを持って踊
るところなど様々です。



腰細



羽茂



南片辺

佐渡芸能アーカイブ

一足型鬼太鼓の
動画が見られます



<https://www.youtube.com/watch?v=ZGef4XVwsz0>

豆まき型

太鼓にあわせて翁が踊り 鬼はほとんど動かず

豆まきの翁が片手に升、もう片方の手にナスや柿を持ち太鼓にあわせて踊ります。江戸時代、相川祭りの行列では別であった鬼太鼓の太鼓で豆まき翁が踊るようになったと考えられます。

豆まき型の鬼太鼓には、鬼面を付け、長刀や棒を持ち、鎧を着けた者がいる所もあります。神社や御旅所などに張られたしめ縄を切る役目を担っている地域もあります。



八幡



相川大工町



鍛冶町中原

佐渡芸能アーカイブ

豆まき型鬼太鼓の
動画が見られます



<https://www.youtube.com/watch?v=14cgfrtEa2g>